

働き方や地域の暮らし、アジアの連帯を学び合う

第97回ユニオン学校



開催～

みんなで作るユニオン学校、どなたでも参加できます。運営に力を貸してください。

「歌う社会運動家 添田唾蟬坊」

歌を聴き、時代の違いを考える。さて、何が違うのか？

お話

大場一哉 さん

(居酒屋「楽人」店主)

日時：2023年4月20日(木) 18時30分～

場所：労働会館第1・2会議室 ※地図裏面

主催：ユニオンと連帯する市民の会

連絡先：080-3543-9205(松本) 090-9936-8202(木村)

会場カンパ
500円ほど



添田唾蟬坊 1872年～1944年



添田唾蟬坊

明治・大正期に活躍した演歌師の草分けである。

本名は添田平吉。号の唾蟬坊は自らを「歌を歌う唾しの蟬(唾蟬=おしぜみ)」と称したことに由来する。幸徳秋水や堺利彦らとも交流を持ち、1906年(明治39)

年日本社会党結成時に評議員になり社会主義演歌の伝道者といわれた。痛烈な風刺とユーモアのきいた歌は今も色あせない。「あきらめ節」「わからない節」などは聴いたことのある人も多いのでは。

